

唐桶溜

(かるけのため)



ため池遠景



親水水路



堤体側より湖面を望む

ため池の概要

ため池の所在地

栃木県芳賀郡芳賀町

ため池の特徴

唐桶溜は、雑木林の丘陵地に挟まれたこの土地の水不足解消のため、江戸・宝永年間に築造され、現在も48haの用水源として地域の農業を支えています。

元禄14年(1701年)、地元の名主であった岡田宗山は、上流部の沢をせき止め、6haの唐桶溜築造に着手しましたが、上流からの流水だけでは満水に至らず、12km離れた鬼怒川から導水することを余儀なくされました。途中、山や台地、森林の続く起伏の激しい難所があり、4kmを隧道とする大変困難な事業でしたが、宝永3年(1706年)によりやく完成しました。

池は、隣接する「宗山公園」と一体となって良好な景観や環境が保たれており、水生昆虫、魚類、両生類など多様な生物の生息・生育空間となっています。

また、野鳥が多く飛来することで知られ、冬場には白鳥も観察することができます。

池の管理は、地元ボランティア「唐桶溜の環境を守る会」によって草刈りやゴミ拾い等の清掃活動が行われています。

関連情報

芳賀町ホームページ

<http://www.town.haga.tochigi.jp/>